

CONTENTS

自作自演186小林正丈・山村利之・大瀧繁巳 2
 JIAに入会して羽柴順弘・間瀬高保 3
 <対談 第2回>建築を囲む科学 前編 山崎真理子氏に聞く 4
 新連載 建築家は、リージョンをもつ。 黒野有一郎 6
 第31回JIA 東海支部設計競技 1次審査結果 矢田義典 8
 第2回JIA 東海住宅建築賞 表彰式・大賞受賞者記念講演会・シンポジウム
 脇坂圭一 10
 JIA 愛知発 プロフェッショナルセミナー愛知 2014-建築家実務講座-「構造」シーズン2
 第2回「建築家は構造をどう包括するか」
 講師:渡辺誠一氏 佐藤和正・森 昭夫 11
 JIA 愛知発 第3回「RC造のひび割れを減らすには」—型枠の違いによるコンクリートの違い—
 講師:渡辺誠一氏 高嶋繁男・畠山成好 12
 JIA 愛知発 法人協会主催CPD研修会 環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組みについて
 山本義和 13
 JIA三重発 会員研修会3 建材研修会 法人協会2社から商品紹介 相原宏康 14
 ▶東北からのメッセージ
 3.11からの石巻「ISHINOMAKI2.0」① 西田 司・勝 邦義 15
 JIA 建築家大会2014岡山
 石田 壽・村松 篤・笹野直之・浅井裕雄・森 哲哉・原真佐実・柳澤 力・長尾英樹 16
 保存情報 第157回 豊田佐吉記念館 原真佐実 20
 奥三河の飯田線駅舎・湯谷温泉駅ほか 鈴木利明 20
 理事会レポート 鳥居久保 21
 東海支部役員会報告 矢田義典 22
 東海とっておきガイド ⑦③ 静岡編 坂部真彦 23
 地域会だより 23
 編集後記 牧ヒデアキ・石川英樹 24

Intuition VIII

フリーダム
アーキテクチャー



今回は番外編で撮影地は東京。一体どういう経緯を経てこんな建物ができてしまったのか。増築されたと思われる木造平屋の上に鉄骨の架構を組み、その中に木造の小屋が挿入され、さらに屋上が設けられている。前号の建物もそうだが、あまりに自由だ。

鉄骨の1F部分の頬杖が左右で異なっていることから、平屋の木造が先であることは間違いないが、こうまでして残したかった理由はなんだろうか。「解体するよりも鉄骨で架構を組んでしまった方が安かったから」というのが正解の気はするが真相はわからない。

フレーム内につくられた2F部分の窓や扉を見ると、中心や角が構造材や隣の窓の下端に合わせてある。どうやら建築的なデザイン心はあるようだ(でも、この扉はなんのため?)。2Fの小屋は、左にある既存建物と渡り廊下で繋がっている。

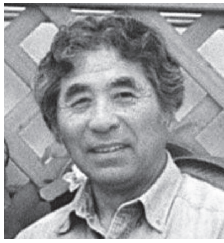
そして屋上フェンスの形。これも謎。手すりは柱の位置にある。なぜ上が開いているのだろうか。注意深く見ると、左と右の頭繋ぎからピンのようなものが等間隔で出ている。ロープを渡して洗濯物を干したのではないか。もしかしたら洗濯物が風で揺れたとき、フェンスに当たらないようにしたのかもしれない。

読み込むと結構味わい深い建物である。

面白い建物や空間があれば、このメールアドレスまでぜひ連絡頂きたい。yokozeki@vfweb.jp

横関浩 | STANDS ARCHITECTS





小林 正丈 (JIA 静岡)

小林建築事務所 (駿東郡清水町柿田270-19 TEL 055-975-7499 FAX 055-975-7651)

喜寿

今年喜寿を迎えた。思えば随分長い間生きてこられたものだ。

先日、中学校当時の同窓会があり出席した。60年以上もタイムスリップして当時のいろんなことが思い出されるのは何だろう。中学は3クラスで170人ぐらいだったと思うが、すでに20人ほどはあちらに行って、残り150人ほどになった。そのうち、53人が今回の出席者だと聞いて驚いた。毎回困るのは、顔は分かるが名前が思い出せない。特に女性はだめだ。白髪、ハゲ、シワ、ヒゲ、デブ、ひどく痩せた者もいる。少々痴呆の者もいたりして、明日は我が身かと思う。

「今回で一区切りをつけたい。」との幹事の発言にブーイングがあり、せめて80歳まで続けようとの声に押されて結論は先送りとなった。よほど群れたいのかと思ったりもした。考えてみれば、皆リタイヤして暇は十分あるからだろう。

今年は、昼食会でやったので遠方から出席した者と二次会となり、とうとう泊りとなった。二次会は男女9人の参加となり昼間の延長でおおいに盛り上がり、夜中までしゃべり寝かせてくれない。話題は食べ物がなかったこと、誰が優秀だったとか、女性の先生を泣かせた話、ムチで殴った先生の名前、進駐米軍に缶詰などをもらった話とかで他愛もないといえばそれまでだが、これが同窓のよしみとも思えた。

これから何年続くか分からないが、傘寿まで続くようならぜひ参加したいと思う。果たして健康でいられるか…。酒は少々、タバコはやらない、ゴルフはお天気次第で、スケッチ旅行などを楽しんでいる。



山村 利之 (JIA 愛知)

MD 建築設計事務所 (名古屋市中区金山3-8-5 スカイ金山ビル5F TEL 052-323-7887 FAX 052-323-7877)

圧倒的な自然を前に思う

毎年 春と秋にこの地方の水の源である木曽川の山にボランティアで木こりに行きます。

水瓶である木曽川水系の水源のある長野県木曽町、王滝村、木祖村の整備されていない山に入り、水資源を守るため、森林の間伐、除伐、枝払いなどのお手伝いをさせていただいています。いつもであれば目いっぱい森林浴を楽しみ、満足感と気持ちのいい倦怠感を持って帰ってくるのですが、今回は少し様子が違いました。

度重なる異常気象での水害や、大型台風にも見舞われ、現地に着くまでも南木曽での水害など各所に多くの爪痕が残っていました。作業を終え見上げると、いつものように大きく雄大に佇んでいる御嶽山からもくもくと白煙が出ているのが見えました。大変な災害だったのだと改めてやりきれぬ思いを抱くと共に、圧倒的な自然の前での人の非力さと、地球にとってはウイルスのような人間はもっと心を正して自重をしなければならぬのだということを痛感して帰ってまいりました。

今年の災害の犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。合掌……………



大瀧 繁巳 (JIA 岐阜)

金華建築事務所 (岐阜市日野西2-1-7 TEL 058-246-8191 FAX 058-246-8192)

台湾研修旅行

先日、2泊3日の台湾研修旅行に行ってきました。40年前に行ったことがあり、興味深く楽しみにしていました。中部国際空港から3時間弱のフライトで台北に到着し、日本の会社資本の設備メーカーの工場を見学させていただいた後、整備された高速道路を利用して台北市内へ。市内に入ると車の多さとバイクの多さ、交差点では先頭に暴走族でも現れたかのような通勤する人たちのバイク集団。活気が半端でなく台湾の人たちの力を感じました。中心部に入ってまず目に入ってきたのは台北のランドマーク101展望台。地上101階、高さ508mの超高層ビル。ほかにも高層ビルが林立し、現在の台湾の目覚ましい発展を遂げつつある、元気を姿を目の当たりにしました。夜はおいしい台湾料理をいただいた後、士林夜市へ。グルメから雑貨まで何でも揃っている店、店、そこに群がる人、人、そのとんでもない賑わい、エネルギー感には只々唖然！ 今、地元岐阜の沈滞した柳ヶ瀬界隈の復活のヒントはこれでは！

翌日は台北の観光地、忠烈祠、故宮博物院、101展望台からのパノラマほか、きれいで魅力的な台北を満喫しました。中でも忠烈祠の、衛兵の一条乱れぬ交代式は圧巻。国を守ってきた英霊に対する尊敬の念、国への忠誠と、国を愛する思いを感じることができました。元気と活気、大切な文化を知り守る、国の誇りと愛する思い、今、日本人が忘れていた大切なものを教えていただいた納得の旅行でした。



士林夜市

☑ JIAに入会して



羽柴 順弘 (JIA 愛知・準会員)

haco建築設計事務所
(愛西市諏訪町郷浦49-1
TEL/FAX 0567-55-8348)

今回お世話になっている方の誘いもあり、JIAへ入会させていただくこととなりました。

今思い返せば自分の目線より大きなものをデザインしてみたいという漠然とした思いから建築の世界に飛び込み、設計業務にたずさわっていく中で建築の面白さと奥深さに興味を持ち始めました。いつか自分自身の思いや考えを建築として形に残していきたいという気持ちが日に日に強くなり、そんな自分も気付けば事務所を構えるようになっていました。入会はまだ早いかと思う反面、これもまたひとつのステップアップ。まわりを見渡せば立派な方々ばかりで恐縮する自分がありますが、皆さんの刺激を受けながら、今まで以上にスキルアップができればと考えています。



間瀬 高歩 (JIA 愛知・準会員)

地域計画建築研究所名古屋事務所
(名古屋市中区錦1-19-24
名古屋第一ビル6F
TEL 052-202-1411
FAX 052-220-3760)

数年前、ある児童養護施設・乳児院の設計監理を担当させていただきました。それまでの児童養護施設・乳児院の現状は大変厳しい居住環境にありましたが、より家庭的な雰囲気へ施設環境を整えることを目標として、チーム体制で設計監理に取り組みました。竣工からしばらく経ち再び施設を訪れた際、施設長より「子どもたちの表情が明るくなり、勉強に取り組む意欲、集中力が少しずつ出てきました」とのお話を伺いました。

一つの建築では、児童福祉における根本的な課題を改善することはできないかもしれませんが、子どもたちの未来を明るい方向へ後押しできる可能性があります。

これからも、人・地域との出会いを大切に、一つひとつ取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。

伝染病から身を守るしくみという程度に考えられてきた免疫が、分子と遺伝子の動きで生命を理解しようとする生命科学の中心に位置するようになったのは比較的最近のことである。そればかりか、もっと巨視的な生命観にも数々の問題を投げかけている。免疫は、病原性の微生物のみならず、あらゆる「自己でないもの」から「自己」を区別し、個体のアイデンティティを決定する。還元主義的生命科学がしばしば見失っている、個体の生命というものを理解するひとつの入り口である。

『免疫の意味論』(多田富雄 | 青土社1993年)より

この連載は、直接建築をテーマとしていない研究者と建築の研究者が「建築」をキーワードにして対話でつながるものです。第2回は、木造が建築界の中で置き去りにされてきたのではないかと状況の中、木についてもっと広い視野で研究をされている山崎真理子氏(名古屋大学准教授)に生命農学の分野から語っていただきます。

聞き手はブリテン委員の生田京子氏(名城大学准教授)です。

吉元 学 | ワークキューブ



生田 まず山崎先生の研究分野のお話をお願いします。

山崎 木に関することすべてになります。農学部には森づくりや木の形成の研究をしている人たちが多いのですが、一方でバイオマスエネルギーや紙パルプなど化学利用の研究をするグループもあります。私の研究室では、いわゆるマテリアル利用という、木そのものの利用についての研究に主に取り組んでいるのです。間伐材や風倒木もターゲットになります。

また、古材の研究にも力を入れています。新材は日本各地の研究所のデータベースがあって随時更新され、統計的な処理をされて基準強度が皆さんのお手元に届いているのですが、古材のデータは全然ありません。そこで古材についても非破壊的に評価しデータ化することで、新材と同様に科学的に扱えるようになるのではないかと考えます。

1本1本を評価する

生田 非破壊的というのはどういう方法で評価するのですか。

山崎 私は応力波を使います。超音波だと減衰する可能性があるので、応力波を使って地震波みたいなものを与えてその速度を測るのです。材の力学性能の指標である

ヤング率を求めるためには本当は密度が必要なのですが、実際にごつごつしたものの密度を測るのは不可能なので、無統計処理、モンテカルロ・シミュレーションというものを使ってヤング率を評価するというやり方をします。木は、本当は1本1本性格が違い、建物の中で強いところ、弱いところがありアンバランスになっているはずなのに、今はそれを無視した形で設計法が出来上がっていると思います。丁寧に構造解析をやっていくのであれば、1本1本のヤング率を入れてやれば良いと思うのですが、恐らくそういうことはやっていなくて、壁の剛性がとれているかどうかとかでやっている。

生田 先生は多くの修復現場にかかわっておられるようですが、修復作業では、全部測って修復する際に足りないところを補うという形なのですか。

山崎 ケースバイケースです。重要文化財

は基本的に材料を取り替えないので、弱い材料が見つかった場合には、そこに力学的に負担がかからないように補強がなされるのだと思います。

重要文化財ではないケースで、善光寺の大勧進というお寺の本堂の屋根の調査をしたときのことで。お施主さんは屋根の葺き替えだけでいいということでしたが、建築士の人は、屋根の規模に対して材料が細いのではないかと、小屋組み自体をやり替えたほうが良いのではないかと考えていました。でも、それを明確に説得できなかったのです。このときは、大梁を全部評価して、一番下の、全部を支えている大梁の強度が非常に小さいことが分かり、曲げ剛性の評価をしてちょっと不十分だろうと思われました。生物劣化も見られ、それらがきっちり数字として出てきたのです。

生田 エビデンスがとれたということですね。

山崎 それでお話を聞いていただけて、屋



善光寺大勧進万善堂 左：解体前 右：屋根フレームの解体



根を取り替えることになりました。

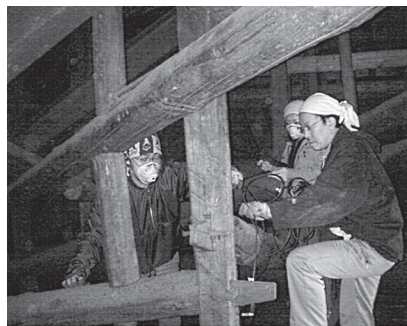
また長野県のお寺で庫裏を新築にしたというお話のときは、大きい広間が欲しい、それなら新築だろうと檀家の皆さんは思っていたらしゃったのです。でも結構立派でしっかりした材料が使ってあって応力波の伝播速度を測っても問題なかった。要は、古くなると悪くなるだろうというイメージがあるのです。強度は新材と変わらないし、今これだけの材料を調達するのは不可能だし、捨てられ燃やされるとCO₂に戻ってしまいますよ、などと檀家さんとお話をする中で、皆さん、改めて自分たちの建物に価値があると気づかれました。そして材を残しましょうと、プランが全く変わってしまいました。

生田 なるほど。

山崎 解体して新材も投入し古材とコラボした形で組み直して、設計士さんも工事の人も大変だったと思いますが、私たちにとってはハッピーなリペアの方法でした。「古材は200年持つ」とかいう一般論ではなく、1本1本性格が違うので、きちんと見て、良いものは使う、だめなものはだめで取り替える、ということをやってほしいと思いますね。

今の住宅の建て方は
森の役には立ちません

山崎 研究の軸はもう一つあります。日本



部材ごとに応力波伝播速度を測定

では、グレーディングがあまり浸透してなくて、無等級材でみんな設定されてしまうのです。外材は悪く言われますが、きちんと1本1本評価されています。人が千差万別、適材適所があるのと同じように、木材も、スギはこういうもの、ヒノキはこういうもので全部同じ、ではなくて、1本1本の力学性能を評価して、性能の高いものを建物に、そうでないものを例えばバイオマスに回すということを本来すべきでしょう。科学的にはできるんですよ。日本は、グレーディングは製材の段階でやるのですが、それを丸太の段階でなるべく簡便に評価が導入できるような方法をつくって、木の利用法を考えようという研究をしています。

ただ、今の住宅の建て方では、あまり森の役には立ちませんね。これまで住宅のコストを下げるような工法が発展し、部材を小さく、つまり1本1本の性能が高いものが求められてきました。外材に合わせて発達したマーケットと、つくる側の要求でそうなってきたと思うのですが、外材でなくスギにしましょうとなったときに、スギでは弱いと言われるのです。スギが弱いのではなく、その建て方がスギには合っていないんですね。具体的な数字にすると、E105とかI10とかいった材料を求める。E110だとスギでは性能が高いほうです。スギで使ってほしいのはE70～90なので、E70～90で設計してもらったほうがいいわけです。部材断面を大きくしなければいけないのではないかと私たちが思ったのですが、構造計算をしたら、今の建て方のままでE90でも十分建てられる部分も多いはずなのです。でも数値を落とすということは、多分一般的なイメージとして粗悪なものになると思いがちですね。

生田 そう見えますね。

山崎 要は、木材の値段が性能で決まっていないのです。スギが弱いわけではなく



やまさき・まりこ | 1992年名古屋大学農学部林産学科入学、2001年同大学大学院生命農学研究科にて博士(農学)取得、2007年名古屋工業大学大学院工学研究科にて博士(工学)取得、木材をはじめとする生物材料について、材料強度学の観点から研究活動を行う。2009年に現職に就き、森林資源の持続性向上のために木材利用がどうあるべきかを問い続けている

て、もともと過剰設計なわけ。その辺をきちんと理解してもらいたい。しかし、建築学科でそういうことをきちんと教えていますか。教えてないですよ。木材の性能は全く理解されていない、コンクリート、鉄、木材という形で、数字だけが並んでいるのです。木材は工業材料ではないので、本来そういう使い方をすべきものではないのですが。

生田 教育段階で、ある程度そういう知識を入れる必要があるかもしれないですね。

山崎 日本の場合、木材については表面的な部分を学んでいて、使いにくいイメージしか持たないわけです。ばらつきがあるし腐るし、気を付けなければいけない点を集中的に教えられる。それは極めて表面的な話であり、もう少し深い話をすべき。あるいは、農学部のこういう領域を出た人たちがもう少し建築の世界の中に入っていき、ということもあるかと思うのです。担い手育成みたいなことは、建築学科や木材系の人たちだけで別々に抱えるものではないなと思います。

(前編終わり：2月号に続く)

聞き手

生田京子 | 名城大学准教授



新連載 建築家は、リージョンをもつ。

「豊橋」と「水上ビル」

黒野有一郎 | 一級建築士事務所 建築クロノ

建築家は、地域へどのようにアプローチして、地域とどのようにかかわっていけるのか？ 地方都市・豊橋市（愛知県）の「まちなか」における取り組みを10年間の活動を交えて紹介する。そのはじまりに、僕自身が「ホーム」に選んだ「豊橋」と「水上ビル」について触れておきたい。

豊橋という「まち」

豊橋市は、「東三河」と呼ばれ、静岡県と湖西市、浜松市と隣接する愛知県東部の「中核都市」である。西に三河湾、南は遠州灘を望み、一級河川「豊川（とよがわ）」が市内を貫く。

平成26年統計によると、人口=378,530人、1世帯当たり=2.5人、平均年齢=43.4歳、人口増加率マイナス=0.3%、平成24年度の合計特殊出生率=1.56、豊橋駅の1日あたりの平均乗降数=計51,800人、といったあたりが目にとまる。

かつては、名古屋市（227万人）に次ぐ県下第2位の人口規模（ピーク時=38.5万人）であったが、平成の合併後、豊田市、一宮市に抜かれ、現在は第4位に甘んじている。それでも人口38万人といえ、他県の県庁所在地規模といってよい。

改めて、豊橋の歴史について、ひも解いてみる。原人化石の発見にはじまり、旧石

器時代から縄文・弥生時代の遺跡、古墳などが点在し、5世紀中頃以降、「徳国（ほのくに）」、次いで「三河国（みかわのくに）」と呼ばれた。永正2年（1505年）、牧野吉白により「今橋城」築城に際し、「今橋（いまはし）」、その子・信成によって「吉田（よしだ）」と改称され、その後、江戸期には東海道「吉田宿」としておおいに栄えた。どこを切り取っても、この地域には、人がいて、活発な往来があったことがうかがえる。

明治新政府により「吉田」から「豊橋」となったのは、明治2年（1869年）。市制施行は、愛知県下で名古屋市に次いで2番目の明治39年（1906年）、市制108年となる。

近世、「玉糸」による製糸業の隆盛から「蚕都（さんと）」と呼ばれ、近代に入り「軍都（ぐんと）」として戦時下の軍需を支えた。昭和20年（1945年）の「豊橋空襲」により焦土と化した市街地は、戦後復興から高度経済成長の波に乗って急速に整備され、以降、昭和から平成、さらに21世紀をむかえ、現在まで至る。

歴史をあたれば、時代の各々の段階において、時の政治や経済のキーパーソンが“しかるべき一手”を打ってきた。新田開拓や用水の整備しかり、鉄道の敷設、都市計画しかり。そのことが、豊橋の「今」を形づくる礎だったと感じられる。まさに、日本の成

長や時代の変化と足並みを揃えて歩んできた地方都市の普遍的な姿がある。

豊橋という「まち」のもつ最大のポテンシャルは、人の往来によるエネルギーである。昔も今も東西交通の要衝であって、同時に、海（渥美半島）へ、山（奥三河）へと繋がる“ハブ”でもある。

豊橋のような戦災復興型の都市における中心市街地＝「まちなか」は、戦前戦後を通じて、人とモノの流通の主役であった鉄道駅を中心に広がり、戦後復興の混乱と近代的な都市計画の狭間で、この時期、一斉に出来上がり、整備された場所といえる。

昭和40年代生まれの僕から見える「まちなか」の風景は、高度成長期の活況や熱気を記憶しつつ、その後の自動車社会へのシフト、市街地の郊外へのスプロールといった、「まちなか」の衰退の道程であった。この衰退は、半世紀をかけて緩やかに現在まで続いている。高校卒業までの18年間をこの「まち」で過ごし、進学を機にその後の18年間を東京圏に暮らした。僕が豊橋に戻った2000年代初頭、「まちなか」は、衰退の底にあったように思う。

「水上ビル」とはナニか？

「水上ビル」——、豊橋市民なら誰もが



昭和19年、駅前大通りはまだ整備の途中。路面電車は広小路通りを通る。「豊橋まちなかマップ」より



昭和33年の全住宅案内図帳。水上ビル完成前。依然として車呂用水が流れている



「水上ビル」空撮。写真右下の駅前から、豊橋ビル、大豊ビル、大手ビルが800mにわたって連なる

知っている“まちなかの象徴”といえるこのビルは、高度経済成長期の昭和30年代終盤から40年代初頭にかけて、文字通り、農業用水（「牟呂用水」）を暗渠化し、その水路上に建設された鉄筋コンクリート造3～5階建ての「板状建築物群」である。総長さは、水路に沿って蛇行しながら、約800mに及ぶ。

「水上ビル」というのは愛称であって、実際には豊橋駅から近い順に、西から東へ「豊橋ビル」、「大豊（だいほう）ビル」、「大手（おおて）ビル」と連なる異なる3つのビル群からなる。

「豊橋ビル」は、養鰻組合を母体とする株式会社が棟ごと所有している。全て賃貸スペースで、1～2階が飲食店舗および事務所向け、3～5階が住宅となっている。駅に最も近い立地であることから、1～2階の飲食店舗部分には店舗の空きはほとんどなく活況を維持しているが、賃貸住宅部分は、間取りも古く、雨漏りや配管設備老朽化の問題などから入居を制限せざるを得ない状況と聞く。

「大豊ビル」は、商店街組合に属する個人による“タテ割り”所有で、いわば“3階（一部4階）建てのコンクリート長屋”である。1階を店舗とし、2階以上を事務所や住居に充てている。

東京オリンピック開催、東海道新幹線が開通した昭和39年（1964年）に最初の「水

上ビル」として完成した。「豊橋ビル」は、この翌年の完成となる。

完成時には、59店舗が軒を連ねた。主に半分が小売店、残りが御問屋で、店主＝居住者であることから、50年を経て徐々に自前の店舗を閉じて、賃貸店舗へと移行する時期に入っており、2～3階には依然居住しているものの、1階店舗部分には、空き店舗が目立つようになってきた。

「大手ビル」は、遅れること3年、昭和42年（1967年）に同様の手法で建設され、1～2階に“タテ割”の個人所有の店舗および居住スペース、これに3層（3～5階）分を積み増す形で愛知県が県営住宅を付加し、外廊下型のコマ割りで賃貸住宅がつくられた。民間店舗と公共住宅の併用された複合ビルである。

しかし、県は、数年前から耐震を理由に新規の入居者を募っておらず、現在では、ほぼ空き家の状態になっている。1～2階の店舗は、飲食店や喫茶店が多く、あとは、菓子などの御問屋や洋品店など42店舗が連なり、現在も営業店舗はあるものの、駅からの距離が災いし、客足は決して多くはない。

このように、三者三様の成り立ちによって建設された「水上ビル」もやはり、成長する時代の要請によるものであり、豊橋市による、駅前エリアの近代化、高度化、都市化ビジョンの一環として、推し進められたプロ



豊橋・田原 絵葉書帖



上 | 現在の大豊ビル。左下に橋の欄干が見える 下 | 『写真アルバム 豊橋・田原の昭和』より豊橋駅前の絵葉書

ジェクトであった。同時に、混乱の時代に、生き残りを賭けた中小零細商業者の団結力が生んだ奇跡とも思える。

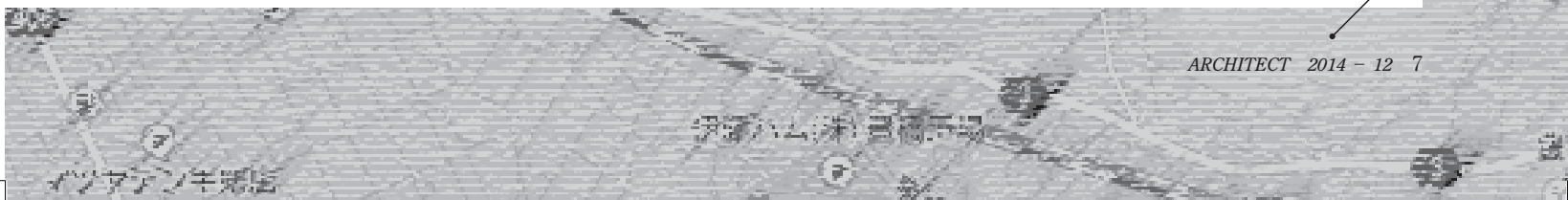
いずれにせよ、この全国でも他に類を見ない“水路上建築物群”の成り立ちの詳細については、次回連載に委ねたい。僕自身は、この「水上ビル」で生まれ育ち、10年前から再び“「水上ビル」の住人”となることを選んだ。

【参考文献】
『とよはしの歴史』（発行：豊橋市）
『豊橋百科事典』（発行：豊橋市）
『写真アルバム 豊橋・田原の昭和』（発行：樹林舎）
『写真集 豊橋いまむかし』（発行：名古屋郷土出版社）

くろの・ゆういちろう | 1967年、愛知県豊橋市生まれ。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。1993年より野沢正光建築工房。「いわむらかずお絵本の丘美術館」「長池ネイチャーセンター」などを担当。2003年、同事務所を退所し豊橋へ帰郷。2004年、一級建築士事務所 建築クロノを設立。2014年より豊橋技術科学大学建築・都市システム学系非常勤講師。現在、「大豊協同組合」代表理事、アートイベント『s e b o n e』実行委員長、駅前デザイン会議常務理事・事務局などを務める



◎次の掲載は2月号です



第31回 JIA 東海支部設計競技 1次審査結果

テーマ「特定秘密保護住宅」

<学生の部>

●2次公開審査会進出者

「-カクレ・イエ-」
「Making Secret Kit」
「モグラたちの隠れ家」

名城大学4年 下釜健吾 (シモガマ ケンゴ)
名古屋市立大学4年 稲垣拓見 (イナガキ タクミ)
立命館大学4年 廣田竜介 (ヒロタ リュウスケ)
立命館大学4年 藤関利光 (フジセキ トシミツ)
横浜国立大学4年 住田百合耶 (スミダ ユリア)
東京理科大学3年 宮田典和 (ミヤタ ノリカズ)
名城大学4年 藤田恭輔 (フジタ キョウスケ)
愛知工業大学4年 石部健多 (イシベ ケンタ)

●銅賞

「棲息する壁」
「受け継がれる傘」
「見えない相席」
「居場所を求める家」

<一般の部>

●2次公開審査会進出者

「浮かび上がる隠された場所」
「揺らぐ境界」

立命館大学M1年 市川雅也 (イチカワ マサヤ)
大阪工業大学M1年 加藤圭介 (カトウ ケイスケ)
大阪工業大学M1年 中原大貴 (ナカハラ タイキ)
フリーランス 山口貴司 (ヤマグチ タカシ)
「ユカ、カベ、ヤネとネコ」
「大きい部屋から遠い部屋 - 水による秘密の再認識 -」東電設計(株) 椎橋 亮 (シイハシ リョウ)
愛知淑徳大学助教 水谷夏樹 (ミズタニ ナツキ)
法政大学M2年 齋須幸太郎 (サイス コウタロウ)
メルボルン大学M1年 佐野勇太 (サノ ユウタ)
メルボルン大学M1年 中島永騎 (ナカジマ エイキ)

●銅賞

「ユカ、カベ、ヤネとネコ」
「大きい部屋から遠い部屋 - 水による秘密の再認識 -」
「2X世紀 健康住宅」
「glass composition」
「置き去りにされた風景の向こうに」

1次審査を終えて

今年で31回目を迎えた、「JIA 東海支部建築設計競技」は従来の審査方針を変更し、1次審査会、2次審査会とも公開で行い、各賞を決めることとしました。また、従来あったシリーズテーマも廃し、時事性、社会性の高い問題をテーマとすることとし、今年度のテーマは「特定秘密保護住宅」と決め、10月11日(土)に1次審査会を名古屋市立大学芸術工学部にて開催しました。

テーマが少し難しく応募数が少ないのではないかと心配されましたが、学生の部33作品、一般の部28作品の計61作品の応募がありました。ゲスト審査員は、昨年「第29回吉岡賞」を受賞された島田陽氏に依頼をし、活発な議論のなか、「2次公開審査会」に進出する各部4作品と銅賞を各部3作品選出しました。

1次審査会は1次ラウンド、2次ラウンドの2段階で審査を進めました。1次ラウンドでは各審査員が7作品程度を選出し、選出数が多い作品は自動的に2次ラウンドに進むこととし、選出数が1人、2人の作品については選出者の審査員に選出理由を述べていただき、審査員全員で議論を交わし2次ラウンドに選出すべきか否かを決めていきました。

1次ラウンドで学生の部は10作品、一般の部は12作品に絞り込まれ(1次ラウンドの表を参照)、休憩を挟んだ後、2次公開審

査会進出作品、銅賞作品を選出する2次ラウンドを開始しました。2次ラウンドは持ち点制とし各審査員が3点票を1枚、2点票を2枚、1点票を3枚の計10点を保有し、強く押す作品には3点票を入れ、また押す作品がない場合には点数票を使用しないことも可とし、審査を進めました。3点票、2点票、1点票と点数を決めたのは凡庸な作品が多く点数を集めた場合、例えば1点票が7点集まったことなどが分かるように、また、各審査員がどの作品を強く押しているかが分かるようにするためです。結果、各審査員が強く押す作品は2次公開審査会へ選出され、銅賞作品では、点数は低いが白熱した議論の末、逆転で入賞する作品などもあり、面白い内容となりました(2次ラウンドの表を参照)。

公開の1次審査会には、学生24名、会員10名、会員外9名の計43名の参加があり、審査員を含めると50名の賑やかな審査会となりました。

2次公開審査会は11月22日(土)に名古屋大学ES総合館ホールで開催します。応募者と審査員の白熱した議論が展開されると思います。ぜひ皆さま、会場へと足をお運び下さい。

矢田義典 | 矢田義典設計室・設計競技特別委員会委員長



学生の部 1次ラウンド

作品タイトル	島田	道家	川本(敦)	川本(ま)	出口	寺下	牧
1 「受け継がれる傘」			○	○		○	
2 「洞窟の家」							
3 「トシのカクレンボ」		○		○			
4 「永遠の地～護りつく巫女～」							
5 「ポリテコハウス」			○				
6 「家族のあり方」							
7 「秘密倉庫」							
8 「restriction house」							
9 「つながる家」							
10 「-カクレ・イエ-」	○	○	○				
11 「見えない相席」	○	○		○	○	○	
12 「性活推進住宅」							
13 「シェアハウスのヒミツ ～とある3人の場合～」					○		○
14 「Making Secret Kit」	○			○	○		
15 「虫たちのいる輪郭 (とこ)」	○			○		○	
16 「4 seasons frame」							
17 「dignity home」							
18 「仮面建造物群」						○	
19 「家族ごっこ」							
20 「7人の小人と紅色BOX」							
21 「居場所を求める家」			○		○		○
22 「秘密を抱える心理と殻と柱」							
23 「表と裏」							
24 「屋根裏の共犯者」						○	○
25 「特定秘密保護集合住宅「ひみつち」」							
26 「家族空間」							
27 「secret pillar～家族の幸せとともにせまくなる住居～」	○				○	○	
28 「すきまづくるいえ」							
29 「冬虫夏草ハウス」							
30 「ノゾキと罫」		○					
31 「モグラたちの隠れ家」	○	○	○	○	○		○
32 「Home > House」							
33 「棲息する壁」	○	○	○			○	○

学生の部 2次ラウンド

作品タイトル	島田	道家	川本(敦)	川本(ま)	出口	寺下	牧	合計	賞
1 「受け継がれる傘」			1	2				3	銅賞
3 「トシのカクレンボ」		3			1			4	
10 「-カクレ・イエ-」	2	1	1		1	1	1	6	2次公開審査
11 「見えない相席」	2	1		1	1	1		6	銅賞
14 「Making Secret Kit」	1			3	3	3		10	2次公開審査
15 「虫たちのいる輪郭 (とこ)」	1							1	
21 「居場所を求める家」		2			1		2	5	銅賞
27 「secret pillar～家族の幸せとともにせまくなる住居～」					2	2		4	
31 「モグラたちの隠れ家」	1	1	3		2	1	2	10	2次公開審査
33 「棲息する壁」	3	2	2			2		9	2次公開審査

一般の部 1次ラウンド

作品タイトル	島田	道家	川本(敦)	川本(ま)	出口	寺下	牧
1 「晴耕雨読の住処」			○	○		○	
2 「2X世紀 健康住宅」	○				○		
3 「glass composition」	○		○	○		○	
4 「秘密が見えない家」	○						○
5 「浮かび上がる隠された場所」	○		○	○		○	
6 「子どもたちのアジト」							○
7 「流転する環境の隠れ家」							
8 「揺らぐ境界」	○	○	○	○		○	○
9 「わたしの家、みんなの公園」				○			
10 「イエが家であることが秘密のイエ」				○			
11 「蒼氓の愛家」							
12 「遊具マンの不思議な暮らし」		○					
13 「ユカ、カベ、ヤネとネコ」		○	○			○	○
14 「秘密基地住宅街」		○					
15 「Si BOX～積層する秘密箱～」						○	
16 「秘密たり得る場所」							
17 「押入れの向こう側」						○	
18 「高すぎる住宅」							
19 「舞い降りる形式 / 立ち上がる形式 - 海抜ゼロメートル地帯における住宅の在り方 -」							
20 「将来の住宅・社会的性差の消失に潜在する秘密保護住宅 -」						○	
21 「大きい部屋から遠い部屋 - 水による秘密の再認識 -」	○	○		○			
22 「コンテナハウス」							
23 「置き去りにされた風景の向こうに」	○					○	
24 「秘密の段差箱」							
25 「地球防衛機構 NDHS - 宇宙機秘密保護住宅 -」							
26 「家無きものたちの家の集合住宅」							
27 「壁アツク秘ミツ」						○	
28 「ベンリ荘」のはなし		○					○

一般の部 2次ラウンド

作品タイトル	島田	道家	川本(敦)	川本(ま)	出口	寺下	牧	合計	賞
1 「晴耕雨読の住処」						1		1	
2 「2X世紀 健康住宅」	1						3	4	銅賞
3 「glass composition」			1	2		3		6	銅賞
4 「秘密が見えない家」	1	1					2	4	
5 「浮かび上がる隠された場所」	2		2	1		2		7	2次公開審査
8 「揺らぐ境界」	3	2	1	1		2	1	12	2次公開審査
13 「ユカ、カベ、ヤネとネコ」		2	3			2	1	8	2次公開審査
17 「押入れの向こう側」						3		3	
20 「将来の住宅・社会的性差の消失に潜在する秘密保護住宅 -」	1	3					1	5	
21 「大きい部屋から遠い部屋 - 水による秘密の再認識 -」	2	1	2	3			1	9	2次公開審査
23 「置き去りにされた風景の向こうに」		1						2	銅賞
28 「ベンリ荘」のはなし							1	2	

審査員 (順不同・敬称略)

○審査委員長 ◎ゲスト審査員

◎島田 陽

(タトアーキテツ / 島田陽建築設計事務所)

○道家 洋

(道家洋建築設計事務所 / ローテクス)

川本敦史

(株式会社エムエーススタイル建築計画)

川本まゆみ

(同)

出口基樹

(日新設計株式会社)

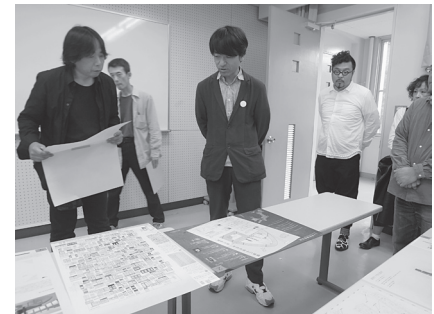
寺下 浩

(スマイロ・アーキテツ・ユニット)

牧ヒデアキ

(makira DESIGN)

審査風景



第2回 JIA 東海住宅建築賞

表彰式・大賞受賞者記念講演会・シンポジウム

今年で第2回目となるJIA東海住宅建築賞が、去る9月28日に表彰式・受賞者講演会・シンポジウムを迎えた(会場：名古屋大学ESホール)。当日は、副賞の記念品制作を担当したガラス作家の椎野美佐子氏よりデザインの紹介があり、引き続き賞状授与が行われた。続いて、大賞受賞者記念講演会、入賞者による受賞作品のレビュー、審査員3人をパネラーとしたシンポジウムが行われた。

昨年度の47作品に比べて、今年度は54作品と応募作品が微増したが、そのうち7作品が関東圏からの応募であった。全入賞作品7つのうち2つが関東圏の建築家が手掛けたものであり、それらは大賞と優秀賞を受賞している。

一次審査会では3人の審査員が1作品に対し1点または2点の投票を行い、結果、3作品が6点、1作品が5点、5作品が4点、6作品が3点、5作品が2点、8作品が1点の得票を得た。6点、5点を獲得した作品に加え、4点を獲得した作品のうち2作品が現地審査に残ったが、3作品は選に漏れた。逆に3点獲得したうちの1作品が現地審査に引き上げられ、4点獲得のうち1作品は3人からの得票を得たにもかかわらず選に漏れた。拮抗した点差から計7作品が現地審査の対象となった。大賞の「Dragon Court Village」/Eurekaと優秀賞の「LT城西」/猪熊・成瀬

建築設計事務所は、ともに集合の形式を持つ住宅であり、一住宅とは異なる社会性、時代性を反映した作品だったのは第1回には見られなかった特徴である。

大賞受賞者記念講演会では、「Dragon Court Village」を手掛けたEurekaを代表して稲垣淳哉氏が講演を行った。1)持続可能な住居の集合形式、2)ポスト車社会と新しいパブリックスペース、3)変容するライフスタイルと空間の運営、4)マルチレイヤードフレームという4つのテーマを掲げて、一住宅作品にとどまらないメタ理論が披露された。早稲田大学で学んだEurekaのプレゼン能力も秀逸で、建築・構造・設備の専門分野を持つメンバーからなる組織力もまた受賞者の中で特異な点であった。

シンポジウムは、生田京子氏の司会の下、審査員の横河健氏、伊藤恭行氏、五十嵐淳氏によって受賞作を振り返る場となった。口火を切った五十嵐氏は、「都市に開いていく家」の思想の飛距離、「4+1 HOUSE」のリアリティを評したが、「LT城西」のプログラムや運営面、「ワークショップ」の居場所についてなど、他の受賞作には厳しいコメントがあった。伊藤氏は、インテリアとエクステリアのどちらに空間があるか、という視点で受賞作を切り分け、前者として「Dragon Court Village」や「都市に開いていく家」のスケールの断面的なずれ、後

者として「LT城西」の半層のずらし方、「ワークショップ」の図式的純粹さ、「4+1 HOUSE」の企みのなさを評した。横河氏は、「4+1 HOUSE」の建築家が持つ感性、「富里の家」の静謐な空間、「ワークショップ」のローコストでありながら建築として成立させる力を評した。

シンポジウムでは受賞者との応答もあり、「ワークショップ」の川本氏からは環境の境界について、「富里の家」の山田氏からは光の長さについて、「4+1 HOUSE」の米田氏からは無骨さについて、「Dragon Court Village」の稲垣氏からは床とバリアについて、「LT城西」の猪熊氏からはゲーテッドの中での豊かさについての言及があった。

最後に、五十嵐氏からは住宅を「つくっている感覚はない、建築をつくっている」との表明があり、伊藤氏からは、「東海圏といっても本質的には変わらず、いい建築をつくるしかない」、横河氏からは「東海らしい土地の持つ建築の在り方」についての投げかけがあり、これらの議論は懇親会以降、深夜に及んだ。

なお、今年度も記録集を刊行する予定だが、昨年と異なり、シンポジウムの議論も含めた構成として編集を進めている。

協坂圭一 | 名古屋大学



審査員と受賞者の記念撮影



Eurekaの稲垣氏によるプレゼン風景



シンポジウムでは審査員が改めて現地審査を振り返った

第2回「建築家は構造をどう包括するか」

講師：渡辺誠一氏(梶山女学園大学名誉教授、JIA 会員)

9月18日の第1回「建築家と構造家のコラボレーション」に引き続き、JIA 会員およびJSCA 名誉会員で工学博士の構造家・渡辺誠一氏を講師に、10月2日(木)に第2回「建築家は構造をどう包括するか」をテーマにしたセミナーが開催されました。受講者は47名(JIA15名、士会10名、一般19名、学生3名)でした。2009年の「Re Seminar (リ・セミ)」も受講させていただきましたが、今回も新たなテーマを持って5年前と同様に受講者に飽きを与えず、どんどん話に引き込まれる実に面白い講義でした。

意匠設計者を意識しての講座ではありましたが、構造の専門家にもかなり興味深い(たまたま自然に目の端に見えていた方なのですが、資料から目を離さず、動画部分では身を乗り出すように講義を聞いてみえました)内容と資料だったのだと感じました。

骨子は①建築基準法をどうとらえるか、②監理・監督の大切さ、③確認申請構造審査・構造計算適合判定で思うこと、の3本で構成されていました。

まず、御嶽山で自然が立ちふさがり捜索が思うように進まない状況を目の当たりにしましたが、自然には人知が及ばないパワーがあり、建築家・構造家は自然から身を守るために何をすべきなのか、過去の自然災害を例にとり建築物がどう影響を受けるのか(自然との共住について軟弱地盤と柔構造建築物、固い地盤と剛構造の建築物を例にとり周期共鳴の招くことなどを話されました)、対処するためにどう建築基準法が変わってきたのか、また過去の地震災害でどのような被害を建物が被ったか、砂地盤での流動化はどのような地層、どの地震で起こったのか、被害を受けな



講師の渡辺誠一氏



会場の様子

かった建物はどこがどのように違ったのか(杭基礎であったり現行の基準に近かったプレストレスコンクリート構造であったり)を多くの資料で教授されました。

また建築基準法をクリアさえすれば建築家として市民に対する責任を果たしているのかと問いかげられ、安全性をどの位置に設定するのか建築家と構造家で協働し、施主の要求にきちんと答えていくこと、安全面をリードしていくことが大事であり、建築家の説明責任(市民の「こんなはずじゃなかった」「そんなこと聞いていない」などをなくすために)、安全性・防災・耐久性・メンテナンス性の説明の重要性を力説されました。

あってはならないことから派生したことですが、構造計算適合性判定の制度によって構造設計者のレベルが上がったことや、本当に1級建築士かというような勉強不足の建築士が多々存在することなどを戒め、技術過信を戒めて自然現象への畏敬と謙虚さを持つように締めくくられました。

佐藤和正 | 野口建築事務所



今回の講座は、自然災害による建築被害の考察から始まった。広島、御嶽山と災

害が続いた時期でもあり、過去の災害被害状況分析は興味深いものであった。中でも竜巻被害で基礎ごとめくりあがり、転倒した住宅の場合「マット基礎であるから起きた事例、これが布基礎であればこうはならなかったのではないか」という指摘には考えさせられた。

さらに、旧規定のプレストレスコンクリート構造での地震被害がほとんどなかった原因として、当時すでに終局強度を設計していた点を挙げて、耐震に対する考え方の推移を説明されたことや、堆積平野が山に変わる「山際」は地震波にとって「波打ち際」と同じで波が大きくなるなどの指摘も目からうろこの感であり、大変印象に残る分かりやすい講義であった。

その後、講義は監理・監督の大切さと確認申請構造審査の経験から思うことと進んだが、まとめて話された「多種多様な職種の技量と心」がその品質を決めるといふくだりが響いた。

吉阪隆正氏の残された「迷ったときは良心に従え」という設計に対する態度と相通ずるものを感じた講義であった。

森 昭夫 | 東海・ビルド



第3回「RC造のひび割れを減らすには」

— 型枠の違いによるコンクリートの違い —

講師：渡辺誠一氏（椋山女学園大学名誉教授、JIA 会員）

10月16日（木）に開催した。参加者は46名（JIA17名、士会9名、一般17名、学生3名）であった。今回のテーマは、構造設計者でなく大学での研究者としての立場から、意匠設計者に向けて説明をいただいた。昔のRC建物はひび割れが少なかったが、合板型枠、ポンプ打ち打設が主流となつてから、ひび割れが目立つようになった、と言われる年配の方が多い。そのことを、本日のセミナーを受講して示された実験結果の説明を聞いて理解することができた。

●コンクリートのひび割れ

乾燥収縮、ひび割れ、荷重オーバー、アルカリ骨材反応、鉄筋の発錆のほか、さまざまな事例を原因とともに紹介された。

コンクリート構造は収縮ひび割れとクリープ変形の特性を踏まえ、0.2mm以下のヘアークラックは許容した設計が求められる。渡辺氏の設計事例で、壁にプレストレスを導入したり、膨張性混和剤を入れたコンクリートを採用した建物では、ひび割れが生じていない。コストはかかるが、設計者がクライアントによく説明していくことが大事である。

●実験1.コンクリートスラブのひび割れは、下地材によってどのような違いがあるのか

捨てコン、砂敷、スタイロフォーム、木毛セメント板、コンパネ、鉄板による比較では、コンクリートの厚みにより違いもあるが、結果は砂敷はひび割れず、鉄板、コンパネなど不透水性かつ附着性の大きい下地材は附着拘束によりひび割れが大きくなる。

●実験2.コンクリート壁の型枠の違いによるひび割れと強度について

通常のコンパネ、布張りのコンパネ、穴あきコンパネ、杉小幅板、メタルラスの比較では、透水性の高いものほど、乾燥収縮ひび割れが小さくなり、強度は増大する。ただ

し、パイプレータなどによりモルタルペーストが流失すると、強度は低下する。

●実験3.コンクリートの型枠として、コンパネに開孔を設け透水型枠とし、開孔率を変化させた場合

<床スラブの場合>

結果、透水型枠がコンクリートスラブの物理的性質（強度、乾燥収縮）の改善に寄与する。開孔率5～10%で十分効果がある。

<壁の場合>

開孔率10%程度にすれば、乾燥収縮ひび割れは約40%減となり、約20%程度の強度上昇が期待できる。

●実験4.透水型枠で、普通・早強・遅延剤混和コンクリートによる違い

結果、強度の上昇、乾燥収縮ひび割れの小さい順は、遅延剤、普通、早強の順であり、コンクリートの硬化速度が透水量に変化をもたらしているに関係している。

●実験5.コンクリート打継面の処理による附着強度について

①レイトンス有り②レイトンス除去③表面凹凸処理④レイトンス除去後モルタル塗り⑤表面グラインダー仕上げ⑥接着剤レジン塗り⑦一体（打継ぎなし）

結果、⑦に比べ、施工監理で見過ごしてはいけない、①0.22、②の状態では0.39、附着面積が増える③0.83、接着力が強い⑥では、その面ではなく打継面近傍で破壊0.72

意匠設計者にとってもコンクリートのひび割れは、構造体の保全だけでなく、美観・防水上、大変関心の高いことであるが、設計で具体的にどのように配慮するか、意匠設計だけでなく、構造計画、構造設計、工事監理を含めて一貫した取り組みが大事であると再認識した。

高嶋繁男 | 黒川建築事務所



会場の様子

最初に、研修委員長として渡辺先生をはじめ、「構造」シーズン2 セミナー関係者の皆様には感謝申し上げます。皆様の協力なしではセミナーの実現も遂行も不可能だったと強く実感いたしました。

セミナー参加者は延べ144名、内訳はJIA 会員50名、建築士会30名、一般55名、学生9名、と各方面からの参加があり、公益事業として十分な成果が得られたと思います。内容も具体的で分かりやすく、実務に役立つ知識を得ることができました。

特に印象深かったのが、第1回目の話の中では、ゲートウェイアーチ（サーリネン設計）にヒントを得て、ツインアーチ138の設計コンペに当選されたこと、第2回目の工事監理の話では、監理者は好かれるより嫌われるようにならないといけないと説かれたこと、第3回目では、実験結果によるとコンクリート型枠に10%ほどの穴を開けた方が強度も出て、ひび割れも少ないこと、などです。大学での研究や設計事務所などでの実務経験豊富な渡辺先生ならではの貴重な実務セミナーでした。

どうもありがとうございました。

畠山成好 | 畠山都市建築事務所



環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組みについて

10月10日（金）アパホテル名古屋錦において、2014年度第1回目のCPD研修会を開催しました。本研修会は、法人協会から日頃お世話になっているJIA会員の皆様への認知活動の一環として、各企業から「環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組み」を紹介させていただきました。

<講演企業>ホクセイ(株)、三晃金属工業(株)、エスケー化研(株)

<参加者数>会員27名 法人協会会員22名



研修会の様子

①ホクセイ(株)

「殺菌銅を使用した排水システム」

講師：吉澤 智博氏

病院・学校・給食センターなどで使用する排水システム（排水溝）に、殺菌銅（Cu⁺）を使用する事例が増えています。菌が発生しやすい排水場所で雑菌を殺菌・除菌する排水システム（排水溝）、殺菌銅とは何かの説明がありました。

過去に銅のサビの一種である「緑青（りよくしょう）」は有毒であるとされていた時期がありましたが、東京大学医学部の実験により無害同様であることが確認され、厚生労働省も確認・認定しました。

では、なぜ今、銅なのか？ 銅には、優れた殺菌パワーがあることが分かってきました。病原性大腸菌O-157、レジオネラ菌、インフルエンザ、ノロウイルスなどに対して除菌・殺菌効果があります。この効果を利用して、菌が繁殖しやすい排水場所での製品開発に取り組んでいる技術を紹介していただきました。

②三晃金属工業(株)

「省資源・省エネ・耐震に貢献する鉄鋼材料」

講師：大崎 勝久氏（日新製鋼(株)）

JIS G 3323に適合する高耐食性めっき

鋼板・高日射反射鋼板・耐震に貢献する鋼板の技術について説明がありました。

従来の亜鉛めっき鋼板の約4倍の耐食性を有する高耐食性溶融めっき技術を開発。これは、亜鉛—アルミニウム—マグネシウムを含んだ緻密な被膜が表面にできることによりサビの進行を抑えるため、めっき層の減耗が少なく長寿命（=省資源）になります。

また、平成24年6月に改定されたJIS G 3322など塗装鋼板のJISには日射反射性能が規定されており、それに適合する日射反射率40%以上の機能を持った環境配慮型の遮熱型鋼板は、屋根からの熱の進入を軽減させ、室内温度の上昇を抑え、省エネに貢献します。

これらの特徴を持った鋼板屋根材を使用することにより、瓦屋根に対して軽量化を図ることができ、耐震性能に貢献している技術を紹介していただきました。

③エスケー化研(株)

「施工環境を変える新建材」

講師：黒田 秀之介氏

塗装工事の問題点であった、臭気・飛散などのリスクを大幅に低減するために、新型乾式建材（シート建材）を開発。これは、あらかじめ工場にて塗料をプレコート施工することで、現場での臭気・飛散な

どの問題を解消する技術について説明がありました。

乾式建材（シート建材）は、在来工法の湿式（現場塗装）と比較して、以下のメリットがあります。①薄型・軽量のため安全性に優れています。②工場製品のため安定した仕上がり品質です。③接着は水性ボンドで、カッターナイフにより切断できるため、低臭・低騒音・低粉じんでの施工ができます。④シート建材をボンドで接着するだけのため、現場施工が簡略化され短工程となります。

このようなメリットがある乾式のシート建材は、施工環境を向上させる新建材であり、その技術を紹介していただきました。

法人協会として、今後もCPD研修を開催しますので、会員・法人協会会員の皆様、ご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。



山本義和 | ジャパンパイル(株)

法人協力会2社から商品紹介

10月10日(金)14時30分より、毎年定期的に行われている会員研修会3(建材研修会)が例会に先立ち開催された。今回は、法人協力会員2社による商品紹介となっており、前半にルウエ・古市氏による「プラネットウォールについて」、後半に株式会社LIXIL・中西氏による「コンセプト住宅:パッシブファースト・パビリオン」「門型フレーム:Smart Skeleton GATE」についてのお話を伺った。

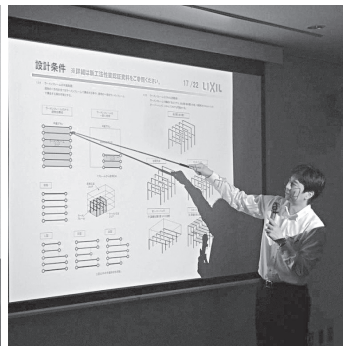
●「プラネットウォールについて」

ルウエ・古市氏の紹介により株式会社プラネットジャパン・中村氏によるプラネットウォール(塗壁材)についての概要をお聞きした。まずは輸入元であるクライデツァイト社(ドイツ)の紹介。木造平屋建ての作業場にて自然素材のみを使用し昔ながらの工法にて今もつくり続けているプラネットウォールは、混ぜ合わせる以外の部分をすべて手作業にて行われているとのこと。作業場の軒下にはツバメが巣を作りヒナが巣立って行く...そんな写真を見ながら聞いていると、そこでつくられたプラネットウォールが人の暮らす環境には適していることが感じられた。

続いて商品説明へと話は進む。プラネットウォールには、いくつかの種類があり、フェザーフィール(ローラー塗り)は薄塗りで落ち着いた雰囲気、マーブルフィール(コテ塗り)は、高級感のあるコテ塗り仕上げに、カルクフィール(コテ塗り)は、厚塗りで粗めの骨材により質感のあるコテ塗りに仕上がる。中でもマーブルフィールとカルクフィールについては、浴室への施工も可能であり、質疑にて話が出たカビについても石灰はアルカリ性が強く発生しにくいとのことであっ



プラネットジャパン・中村氏



LIXIL・高津氏



会場の様子

た。一般内装部分には共通して下地処理の後必ず塗装用紙下地(KOBAU)を張り、その上にプラネットウォールを施工する。この紙一枚によりジョイントやコーナーの割れを防ぐ役割を果たすらしい。単に自然素材でつくられているだけではなく、施工方法についてもしっかり考えられている商品であると感じられた。

●「コンセプト住宅:

パッシブファースト・パビリオン」

パッシブファースト・パビリオンとは、2012年に豊田市(愛知県)がオープンした低炭素なライフスタイルを体験できる展示施設「とよたEcoful Town」内にあるLIXILの展示施設で、断熱・気密・日射遮蔽や自然の通風、採光など建物が持つ基本性能を考え、自然と設備機器が上手に共存し無理なく快適な暮らしができる住環境をつくり出した建物である。株式会社LIXIL・中西氏により建物の設計コンセプトや仕様詳細などの説明を聞き、今後の住宅づくりへの参考になる部分をいろいろと考えることができた。

●「Smart Skeleton GATE (門型フレーム)」

次にLIXIL・高津氏によりSmart Skeleton GATEの説明が行われた。木造

での大開口を可能にする門型フレームを連続的に配置することにより大空間を可能にした工法である。その工法を使用するための加盟料・使用料などはないとのことであるが、LIXIL自体は構造体の販売をするのではなく、設計部分のプランチェック・構造計画・構造計算および集成材・金物などの材料指定を行い、材料発注・プレカットなどは施工業者が個々に行うとのこと。基礎に関しては在来工法の専門工事業者にて施工可能な仕様となっており、特殊な業者が必要ないことは住宅建築への取り入れやすさを感じた。スキップフロア、オーバーハングなどについても対応可能だということなので、ある程度自由なプランもできるのではと期待している。

毎回、建材研修会では新しい商品や工法などを紹介していただき、私としてもとても勉強になっている。今後も法人協力会の皆様と一致団結し地域会を盛り上げていくためにも、この建材研修会は大きな役割を果たしているのだと思う。



相原宏康 | Hiro設計室

3.11 からの石巻 「ISHINOMAKI2.0」①



JIA 神奈川 オンデザインパートナーズ 西田 司 勝 邦義

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市。震災後の石巻をもとに戻すのではなく、震災以前よりもバージョンアップしたまちを創りあげるために、地元のお店主や有志たちと立ち上げた「ISHINOMAKI2.0」という活動にオンデザインは深くかかわっている。

震災前からの人口減少や中心市街地の空洞化など多くの課題を抱える石巻に対し、行政のつくる復興計画には乗らない、人の集まるコミュニティ拠点の立ち上げや運営、地域価値をシェアするフリーペーパーやマップ、ガイドブックの出版、定期的に新しい取り組みを発信するラジオやインターネット新聞などのメディア、昔からの漁師文化と食をテーマにした観光事業など、スピード感と巻き込み力を大切に、地域のソーシャルデベロップメントの実践に取り組んできた。これらは、建築家という職能の範疇では語れない側面も大いにあるが、地域課題克服への新しい構築プロセスと考える。

4年目の現在、プロジェクトは多様な変遷を辿ってきている。1年目は目の前の課題にスピード感を重視しゲリラ的に反応するような活動を展開していた。川に近く、津波で浸水したバーをDIYで改修し

「復興バー」と名付け、夜な夜な復興の現在形とまちのこれからを語りあう場をつくり、実際のプロジェクトを動かす場所としてオープンで誰もが参加できるシェアオフィス「IRORI」を始め、実践と交流場所を同時につくりだした。瓦礫の撤去があらかた終了した2年日以降は、小規模かつ仮設的に始まったプロジェクトが場所や仕組みをもつようになる。

姉妹プロジェクト「石巻工房」は建築家芦沢啓治氏が、被災地にものを送るのではなく、誰もが自らの手でつくれるようにDIYの技術や道具を提供する市民工房としてスタートさせたもので、そこで生まれた家具は地域内外で販売されている。今では国内外からデザイナーが参加し魅力的な製品を生み出し、日本に留まらず海外にも進出している。ITラボ「イトナブ」は、どこでも仕事ができるITスキルの教育と実践を軸に、まちなかで高校生から小学生までが遊びながら仕事を覚えるシェアオフィスを構え、次世代クリエイター育成とアプリ開発を行っている。建築家天野美紀氏がつくり地域のダイニングとなっている「日和キッチン」や、まちの本好きが集まるコミュニティ拠点「まちの本棚」など、活動がまちなか

に場所を持つことで定着し広がり、勢いを増している。

またこれまで見向きもされなかった不動産資源に光を当てていく「2.0不動産」も人の集まるインフラをなしている。永らく空室になり物置となっていた商店街の遊休不動産を、改装して生まれたシェアハウス「八十八夜」など、DIYでつくり、リーシングを行い、企画運営を行っている。実践型のプロセスをどんどん開いていくことで、同時に場所を育てる人も増やしている。

今夏の川開き祭りにあわせたイベント「STAND UP WEEK 2014」では「未来づくりの見本市」と題し、8日間にわたり、業種や職種を超え、震災後の石巻で活躍する団体や個人を60組以上集め、まちなか40カ所で同時多発的に実験的なまちの使い方を提案した。川沿いで石巻の食材を食べる野外レストランや、高校生と実践した萬画館へのプロジェクトンマッピング、空地を利用した屋外映画上映やファッションショーやピクニックの試みなど。未来をつくるまちなかのパートナーを緩やかにつなぎ、その集合した魅力をまちの体験として実感できる時間であった。

「ISHINOMAKI2.0」が取り組むまちづくりは、いつでも誰に対しても開かれている。多くの人やアイデアを巻き込み、受け入れ結びつけるプラットフォームである。ここから飛び立つ皆さんのアイデアが、復興ではなくその先にある未来につながるポジティブな働きかけになると考え、日々実践している。

(②は2月掲載予定です)



商店街のお茶屋さんの2階を改装したシェアハウス「八十八夜」



「STAND UP WEEK 2014」での野外ダイニングレストラン「夕風ダイニング」

JIA 建築家大会 2014 岡山

境界を越えて—総合化に挑む建築家の使命—

2014/9/25thu - 27sat

建築家資格制度をめぐる状況と登録建築家の今後 (職能・資格制度委員会)

岡山大会初日(9月25日)の表題のシンポジウム、会場が大会エリアの中で一番遠いからなのか関心が薄いのか、出席者数20名弱と重要な問題であるにもかかわらず閑散とし、少し残念な感がありました。今年の総会後の意見交換会で突然(?)提案された「JIA正会員ルート」実現のための方策と課題がテーマで、大澤委員長の進行の下、まず芦原会長の挨拶と「JIAと建築家資格制度のこれから」と題するパワーポイントを使った説明から始まりました。

会長の説明は、東海支部講習会と同じです。割愛しますが(「ARCHITECT」11月号掲載)、会場より「建築家資格制度をJIA

は必要だとして社会に説いているが、社会は必要としていないのでは?」「UIAアコードに適合する建築家の社会に対するメリット(公益性を担保する、など)を明確にすることが必要では」などの意見が出されました。それに対し会長は「建築の公共価値」を社会に定着させる活動を通じ、1級建築士では公益性を担保できないことを説明していくと応答されました。

ここで簡単に「JIA正会員ルート」を解説しておきましょう。

現行の「社会制度経由ルート」における建築士会の「統括専攻建築士」との統合による新民間資格の創設が、見通しが立てにくい状況に陥っている。「社会制度ルート」は維持しながら、JIAの正会員全員が登録建築家となる、すなわち全員がUIA基準の建築



「建築家資格制度をめぐる状況と登録建築家の今後」

家となること「正会員ルート」を並行して準備しておこうという考え方です。

これには実現に向けた方策を検討し、多くの課題を解決していく必要があります。会場からは「まだ多くの会員が理解あるいは認識していない」「来年6月の通常総会での決議までに、支部・地域会で議論し全会員に周知すると共にさらなる広報が必要である」「積極的に各支部・地域会へ赴き意見交換会を開催してほしい」との意見・要望が強く出ました。

最後にUIAアコードを会員が理解できるように、英文・仏文の日本語訳(参考資料)の説明があり、盛んな意見交換が行われシンポジウムを終了しました。

石田 壽 | 中建設計(愛知)



全国地域会長会議

9月25日に岡山県倉敷市の大橋家住宅にて行われました。ここは市内で唯一の国指定重要文化財で、倉敷格子・倉敷窓・なまこ目地瓦張が特徴の倉敷町家です。広大な敷地の約半分には長屋門や土間、数多くの座敷を持つ2階建ての住宅が建てられ、残りの敷地には2つの蔵と茶室、池を配した庭園が広がっています。私たちは1階一番奥の6つの座敷を貸し切り、各地域会からの報告と質疑応答を行いました。

フェロウシップ委員会の道家駿太郎委員長の挨拶に始まった会議は終始熱気を

帯びたもので、参加者(25地域会25名)の口火を切ったのは福島地域会。「現状を見て、われわれ建築家は今何をすべきかを考えてほしい」と、今秋開催の「JIA東北支部建築家大会」への参加を呼び掛けていました。石川地域会からは、三位一体の活動として正会員・協力会員・準会員が全員参加で委員会を構成しながら、子どもから高齢者までを意識した事業活動や行政に対する政策提言、ボランティアの手を借りて古い町家を清掃して贈る「おくりえプロジェクト」など、多岐にわたる報告がされました。和歌山地域会からは災害時に活用できる「逃げ地図」の紹介、杉並地域会からは建築3団体(士会、士事協、JIA)協同の杉並建築会の立ち上げ、

沖縄支部からは県のグローバル事業としてタイや台湾との国際交流など、さまざまな活動報告が印象に残りました。

東海支部を代表して、愛知の水野豊秋地域会長からはゴールデンキューブ賞と11月開催の活動発表交流会の紹介、私からはJIA静岡主催で実現した2つの設計コンペを紹介させていただきましたが、今回の会議を通じて改めて地域交流の大切さを学んだように思います。今後も高い視座と広い視野と鋭い視点で地域活動を広げていきたいと感じた1日でした。

村松 篤 |
村松篤設計事務所(静岡)





大橋家住宅での全国地域会長会議



大橋家住宅外観



全国住宅部会連絡会議

第6回 全国住宅部会連絡会議

9月26日、全国の住宅部会や住宅委員会、住宅部会がない支部、設立検討中の支部なども集まり、意見交換をすることで住宅部会の連携と活動の活性化を図り、また会員の意識を高める目的で行われました。主催は近畿支部住宅部会です。

各支部の活動は大方、次に挙げるような項目です。住宅賞、市民向けセミナー、展覧会、ワークショップ、住宅相談会、研修旅行、建築家カタログなど。

各支部に共有すべき内容とその支部特有の内容がありましたが、特に共有すべき内容が予想以上に多くあり、今回のよ

うに集まって意見交換することが大いに意味があったと思います。特徴的な活動内容で共有すべきと感じたことをいくつか紹介しておきます。

＜関東甲信越支部＞市民向けセミナーを月2回、テーマに沿って行う。模型展、街並展、仮設住宅展など展覧会の開催。子供向けワークショップの開催。

＜近畿支部＞イベントは月1回ペースで実施。海外研修実施。住宅相談会を書籍店にて年4回実施。建築家カタログは編集員による審査を通過しないと掲載されない。カタログを売るためには「くらし、すまい」のコーナーに置いてもらうことが重要で、そのためには出版社をどこにするかも重要との意見あり。会費6,000円の

市民会員がある。

＜四国支部＞住宅相談会により成約に繋がるケースが少なくない。

＜九州支部＞建築家と家づくりのセミナー「イエノコト」を開催。

このように他の支部で活発な活動事例があることを知り、少なからず刺激を受けることとなりました。また活動に際して抱える課題についても共通点が多く、その解決策についても今後共有できればよいと思います。



菅野直之 |
菅野空間設計 (愛知)

倉敷の町並みを見学

JIA 建築家大会2014岡山、第6回の全国住宅部会連絡会議に合わせて、近畿支部住宅部会主催の見学ツアーに東海より4名で参加することになった。

倉敷建築工房の大角雄三さんのアトリエと自宅を見学。築100年を超える蔵をリノベーションした事務所だ。土蔵の中は土壁の効果で幾分ひんやりとして、木の香りとドラフターが並ぶ。仕事の環境の豊かさとスタイルに感銘を受ける。大角邸は中庭を中心にコの字プランの一部2階建て、木製サッシと土壁、大屋根のおおらかな建築で、とにかく、風がよく通る。

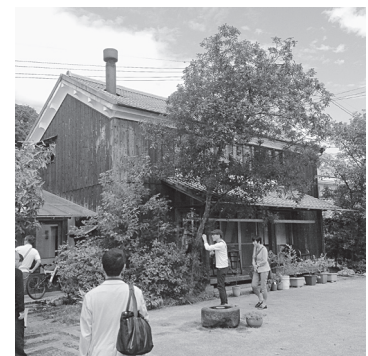
続いて、倉敷の建築家、楢村徹さんのアト

リエを訪れた後、倉敷の伝統的建築群の中で修復再生設計や古民家再生された作品群を見学。

楢村さん、大角さん共に、風土と自然に向き合った地域が絡み合う建築は、その場に湧き上がって、存在し続ける時間の大きさを感じた。26日の大会式典の後、JIA 中国建築大賞の表彰式が開催され、審査委員の一人、内藤廣さんは、地域の建築家の存在を大きく評価。建築の方向性は幅広く拡散しながら、しっかりと根ざしてきているように思えた。

近畿支部の住宅部会と愛知の住研の交流企画も決まり、地域をまたいで、今期の住研のテーマ「つながる」がスタートします。

浅井裕雄 | 裕建築計画 (愛知)



上 | 大角さんのアトリエ 下 | 大角さん自邸

基調講演

「建築の再コスモス化は可能か」 オギュスタン・ベルク氏

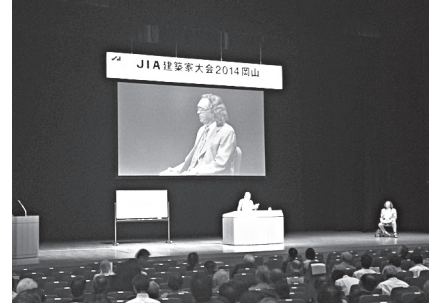
言うまでもなく、建築をつくることで街や景観は形成され、生活文化も育まれる。しかし時として建築が、環境を悪化させ、景観を混沌とさせることはないか？

新国立競技場問題を機に、あらためて都市や景観に関連する書籍に触れてみた。その中にオギュスタン・ベルク氏の著書『日本の風景・西洋の景観 そして造景の時代』もあり、基調講演を興味深く拝聴した。

テーマは“建築の再コスモス化は可能か”。バーナード・ルドフスキーの『建築家なしの建築』を例に、「コスモス」とは、天体、地球、社会、身体などの総合的な秩序であり、建築は本来それらを体現するものであった。近代建築は、特異性を消し「均質空間」を世界中に広め、それを非難

したポストモダニズムは、形をもてあそび無秩序を増大させた。地球上に立脚しない無基底主義「ET建築」が席卷している。と手厳しい。ではどうすればよいか。基盤（自然、地理、歴史など）を参照し創造を加える。例えば、連歌、不易流行、不連続の連続（生命と歴史）、回遊式庭園（移り変わりつつ調和を保つ）などの類似性があるのでは。最後に、もしかすると建築は生への存在という原理の代言ではないか、と結んだ。

この講演の前日に、岡山の建築家、大角雄三さんと楳村徹さんのアトリエや、倉敷の古民家再生によるまちづくりを見学しました。地域に根差し、歴史や文化とかわりながら、新しい魅力を生み出すもので、その質の高さに心打たれました。日本の多くの都市は、戦災や経済の論理により古いものは壊され、そこに刻まれた記憶も失いました。日頃感じていること



基調講演の様子

ですが、風景の混乱は、敷地内のみで自己を体現する建築が多いからではないでしょうか。複雑な社会では難しいことかもしれませんが、基盤の共有なくして、質の高い景観（造景）は生まれないと思いました。



森 哲哉 |
森建築設計室（愛知）

文化財保存再生全国会議 （キックオフ会議）

岡山大会に参加した目的の一つに「文化財保存再生全国会議（キックオフ会議）」への出席がありました。これは東日本大震災後に始まった「文化財ドクター派遣事業」の3年間の集大成をもとに、今後、予測される大地震などの災害による文化財の保存再生活動にともなう諸々の課題に対して、JIAとしてどのように携わっていくのかを意見交換するJIA保存再生の全国ネットワークづくりへ向けたキックオフ会議でした。

参加者は全国9支部より27名（東海支部からは1名）の諸兄に、本部から文化財ドクターとして東日本大震災のドクター派遣事業に参加された対応会議のメンバーの4名と、芦原会長をはじめ上波、辺見、松本の3副会長を含めた約40名。主旨説明の

後「東日本大震災における文化財ドクター派遣事業活動報告（修復塾）」「全国各支部・地域における保存再生に関する発表」などがあり、東海支部はJIA愛知地域会 保存研究会が代表して活動報告を行いました。「ARCHITECT」で毎月「保存情報」として情報発信をしている点是他支部から羨望の眼差し。一部の地域会でも愛知同様、調査研究をしているのですが、発信する場がないというのが現状のようです。

ただ、全国どこの支部でも保存活用問題にJIA全体で取り組んでいる様子はなく、当事者以外いまいち関心が薄いのではないかと感じたので、今後JIAとしてどのように全国ネットワークを構築していくのか課題は多いといえます。

これからは「ヘリテージマネージャー協議会」や「登録文化財所有者の会」との協調も現実問題として必要になってくる

ので、保存再生活動の他団体ともネットワーク化が必要だと考えます。建築家（文化財に対しての知識を持った設計者）としての目に、現場に携わる技術者（文化財に対しての知識を持った工事実務者）、それに文化財を所有する方々も含めて協力し合える環境づくりがJIAとしての役割であろうし責務とも考えます。

ちなみに愛知県では今年「ヘリテージマネージャー協議会」「なごや歴まちびとの会」「愛知登録文化財所有者の会」に愛知県、名古屋市、公社などの自治体を加えた連絡会が動き出しました。ここにJIA愛知の保存研究会としていかにかかわるのかも含め、改めて考えさせられた大会でした。



原眞佐実 |
原建築設計事務所（愛知）

JIA 環境会議 第1回公開委員会&公開討論会

「JIA 環境会議」に支部選出委員として出席し、他支部の地域活動に臨む姿勢を聴いた上、当支部の状況を説明し有益な情報交換を行ってきたので報告します。

■ JIA 環境会議とは

公益社団法人化に伴う組織再編で、委員会は「常設委員会」「特別委員会」「全国会議」に分かれました。その中で、環境活動における全国活動網の強化を目的として発足した全国会議(新委員会)です。<http://www.jia-eal.org/>

委員会であった「環境行動ラボ」は当会議を支える「WG」として活動を継続。

■ 第1回公開委員会&討論会

プログラムの主旨：省エネ基準適合義務

化を見据え、地域と風土に即した建築を全国の関係者で考えようというシンポジウムでした。新会議発足と委員会再編の説明後、継続中の研究活動報告、支部の活動紹介、省エネ施策・省エネ評価手法(国交省)、テーマに沿った実作紹介、公開討論へと続きました。その中から4支部の活動を紹介します。

四国+中国支部：6県地域会から各2名選出の実行委員会を創設。「環境×建築6回連続セミナー2013基礎編」開催。現在「2014実践編」開催中。**近畿支部**：休止していた環境分科会を再開し、交流会や見学会を開催。ネットワークと「火種」づくりを開始。**関東甲信越支部**：10都県からなる環境委員会を創設。AG2014建築祭/講演会・見学会の開催を皮切りに活動開始。

■ 支部の役割

全支部の出席により支部別の活動状況を



JIA 環境会議の様子

把握することができ、地域の気候・風土や歴史を踏まえ毅然とした態度で法や制度に臨んでいこうとする発表を聴くことができました。今後、全国と東海、双方向の情報交換をするために、まずは東海4県の地域会にまたがる受け皿づくりが必要と考えます。



柳澤 力 |
柳澤力一級建築士事務所(愛知)

岡山の自然も堪能

私は9月26日に大会式典～オギュスタン・ベルク氏の講演会に参加。27日は直島見学をさせていただきました。

大会全体としては自然体な岡山の雰囲気づくりがうかがえました。地元の街での活動を紹介するコーナーや物産展の催しも、式典会場内に設けられていました。

講演後には講師がサイン会に応じるなど、とてもアットホームな場面にも遭遇。街中には岡山城や後楽園など歴史的な風景があり、ややレトロな路面電車が走り、岐阜出身の私には懐かしくてとても良かったです。講演会を通して、岡山の自然な温かみ、日本の文化の深さを感じました。

直島へフェリーで渡り、安藤忠雄氏設計の地中美術館とベネッセミュージアムを見学しました。安藤建築は自然をうまく生かした設計で、地中美術館は、出品したアーティストとのコラボ感が満載で、贅沢な気分が味わえて良かったです。



ベルク氏のサイン会



大会会場では物産展も

す。ベネッセミュージアムは、アプローチにおいて、木々の間からパッと広がる海の景色が素敵でした。

ベネッセミュージアムからベネッセの宿泊施設付近までバスで乗り継いで、そこから海辺を散策すると草間彌生さんのカボチャの作品が桟橋付近に突き出ていました。これも荒々しい海に対峙した感が面白い風景をつくり出していました。



直島からの眺め



ベネッセミュージアムにて

直島はJIAのメンバーも大勢参加してみえましたが、一般学生さんや若いカップルの方々も多く、自然と対峙しながら、のどかさのある良い観光地になっていることを実感しました。また、素朴な人々と自然との調和がほど良くとれていて、自然体な岡山大会に相通じるものを堪能いたしました。



長尾英樹 |
Meet's設計工房(岐阜)



佐吉記念館入り口の門



佐吉生家の内部。土間から「おおえ」「おでい」を見る



茅葺屋根の佐吉生家



■発掘者コメント

静岡県湖西市、浜名湖の南西部山口(JR鷺津駅西方)に「豊田佐吉記念館」があります。佐吉の父伊吉が佐原家から独立して豊田家を継いだところであり、佐吉、平吉、佐助などが生まれ、トヨタ自動車を創業した佐吉の長男喜一郎が生まれた生家が復元されている施設です。

19,000㎡余の広い敷地の中には、生家のほかに母屋、集会室、展示室、観音堂、東屋(展望台)、納屋、休憩室などが点在していて、小高い裏山にはみかん畑もあり、ちょっとした散策コースとして設けてあります。

生家はこの湖西地方特有の茅葺屋根土壁造りで、田の字型「四間取り」(よまどり)になっており、

「おおえ」と呼ばれるちょっとした来客や農作業用の部屋、「おでい」と呼ばれる座敷(晴の間・接客用)、寝室として使用した「なんど」、食事の準備をする「だいどころ」から構成されています。

広さは70余㎡ほどの規模ですが、近くの山で切り出した木材などで造られた自給自足の家として建てられたようです。はじめは江戸時代後期に東側の竹藪のところに建てられていたようですが、喜一郎が生まれたのち古見(こみ)というところに移り、昭和49(1974)年まで残っていたものを平成2(1990)年にむかしの姿に復元したとのこと。母屋のみは通常非公開で見学できませんが、裏山から住まいの内部をうかがい知ることはできます。

1989年から復原工事に着手。現況や跡地調査

なども重ね、現在生家の茅葺き全面改修工事を行っている最中ですので、2015年初夏には新しくなった茅葺屋根を見ることができるよう。足かけ25年、ずい分と長い時間を要した改修には頭が下がる思いですが、こういった建築遺産を残していくのもトップ企業としての大事な役割であってほしいと願うばかりです。

名称：豊田佐吉記念館(生家、母屋、集会室、展示室、観音堂、東屋(展望台)、納屋、休憩室)
所在地：静岡県湖西市山口113-2
復元：平成2(1990)年
規模：敷地面積19,093.14㎡、生家建築面積72,31㎡



原眞佐実 | 原建築設計事務所



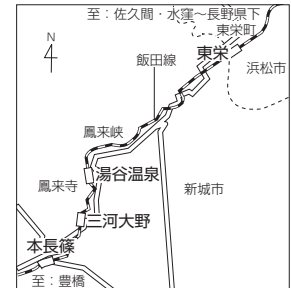
湯谷温泉駅舎全景(線路は背後)



1983年撮影の原形(下掲MOOKより)



飯田線愛知県境の東栄駅舎全景



■発掘者のコメント

生まれ育った豊橋を起点にひたすら山間を辿る旧国鉄(現JR)飯田線は、物心つく頃からずっと私の心の原風景を成しており、とりわけ「奥三河」(私的には古く私鉄田口線が分岐した本長篠から県内北東端の東栄、さらに今は浜松市に属する佐久間・水窪地区まで)区間はまさに少年期の揺籃であった。

二昔くらい前から数多の趣深く懐かしい堂々たる木造駅舎が次々と姿を消し、安全・「合理化」更新されたことはたいへん口惜しく、やはり身近ながら、一連の旧来駅舎や鉄道施設群が登録有形文化財として残存供用され続ける旧国鉄二俣線(現

天竜浜名湖鉄道)の現況が羨ましいかぎりである。そんな中で稀少な現存供用駅舎として、湯谷温泉駅を紹介する。

湯谷温泉郷は宇連川(特に当地は「鳳来峡」「板敷川」と通称される清流の景勝地)沿いに展開する、1200年以上の歴史を誇る温泉街。その玄関口の当駅舎は昔日のホテル併設時の佇まいをそのまま留める大柄な木造2階建て。とはいえ、1980年代にはまだ残存していた正面車寄せとその上部のテラスなどが除去され、現在では1階の待合空間と出札機能が供用されるのみ(しかも通常日は無人化)となって、往時を知る身には寂寥感が否めない。老朽化や用途の陳腐化に悼差して、何とか復

元再生の道を望みたい(隣の三河大野駅も同じく大きな木造旅館併設だったが撤去更新済み)。

奥三河の飯田線駅舎にはほかにも更新済みながら地域特性の高い逸品も多く、国指定・無形文化財「花祭り」の鬼の面を象(かたど)った東栄駅、旧町立図書館併設の瀟洒な佐久間駅、旧「日本一のミニ村」心尽しの待合空間大嵐駅などが嬉しい。

所在地：愛知県新城市滝上
開設：1923(大正12)年2月1日
指定日(土・日・祝日)業務委託駅
【参考図書】
新刊MOOK「飯田線各駅停車」



鈴木利明 | デザイン スズキ

「JIA 建築家大会 2014 岡山」にて8つの議題を審議

本部理事 鳥居 久保



2014年度第2回理事懇談会は、9月25日（木）13時00分～14時30分まで、倉敷市・倉敷物語館「蔵」にて行われた。出席者は会長以下、理事22名（1名欠席）、監事2名、事務局1名。

【議題】

1. 「JIA 建築家大会2014岡山」について（龜谷近畿支部長）

台風の影響を心配したが、若干雨で新幹線の遅れは見られたものの、無事開催の運びとなった。3日間、よろしくお願ひします。

2. 建築士法改正に対する三会の対応について（森副会長）

建築士法改正はこの6月に可決、成立。来年6/27より施行だが、改正内容の周知や、施行されるまでに政令で規定する事項についての具体的検討や調整を三会と国交省間で行っている。例えば

- ①改正された事項についての建築士への周知において、国交省名でのパンフ発行は必須となるので、実行していく。
- ②事務所にかかる保険ではなく、個々の物件にかかっていく保険にしていく、などの検討。
- ③カード型免許証の運営については、記載項目において住所、勤務先の記入の必要性を議論している（人によっては変更が相次ぐ場合があり、その都度書き換えが伴い、変更経費も個人が負担するとなると記載事項の検討が必要）。
- ④建築士の処分の基準の見直し

このような整理、確認事項について今後三会で協議の上、年度内にまとめていく。

3. 第一四半期決算状況について（筒井専務理事）

今期より公益事業比率の管理と収支管理のために四半期ごとの確認を行う。システム的にも地域会を含めてできるようになった。今回は4月～6月分。この時期、事業費が出ていない状況だが、公益比率は現在54.1%。

4. オリンピック・パラリンピック施設整備について（芦原会長・上浪副会長）

新国立競技場の件は、JSCと建築5団体が2回目の追加説明と意見交換会を行った。改修案で行くか、現状の案で行くか、屋根のない変更案（槇氏の案）で行くか、などの可能性を論じているが、いずれ公表される。

また、東京都はオリンピック施設に限って、発注方式をデザインビルドで行うことを表明しているが、JIAは意見書を提出。また新国立競技場の設計について、基本設計は設計事務所が行って、実施段階から施工者が関与するECI（Early Contract

Involvement）方式を取る可能性あり。これは実施の早い段階で施工者がかかわって施工上の課題を設計にフィードバックすることにより、工事費のリスク軽減およびプロジェクト工期の短縮を可能とするもの。いずれにせよ、設計施工分離の原則から外れており、発注方式が今後、揺らぐ可能性あり。

5. フェロー会員選考基準運営マニュアルについて（上浪総務委員長・道家フェロシップ委員長）

- ・フェロー会員の推薦基準が問題になっている。また、フェロー会員とは何かの分かりやすい定義がない。
- ・もともと、新会員制度の中で新たに制定されたフェロー会員を誕生させたい事情があったが、どの程度の希望があるのか不明だったので当面終身正会員の資格を持ち出したのが、分かりにくくさせている。
- ・現在の「終身正会員」は、選考基準ではなくあくまで当面の運用基準として引用しているに過ぎない。
- ・寄付の位置付けがされていない。寄付がフェロー会員の要件なのか。また寄付の用途もわからない。

6. 役員候補者選挙規程改正について（上浪総務委員長）

役員は2期を限度に任期の制限があったが、現在の定款では制限がなくなった。しかし、役員が固定化せず新陳代謝する必要性もあって、役員として再度復帰することに対して、制限を設ける方向。

7. HPに会員専用掲示板を設ける件について（鈴木広報委員長）

掲示板を現在のJIAのHPに組み込むのは、システム変更に伴う膨大な費用が掛かるため、事実上無理。JIA基本政策諮問会議答申書への会員の意見も掲示板を用いて聴取したかったが、以上の理由でHP書き込みではなく、会員専用ページからのメールで聴取している。

8. その他

文化財保存再生全国会議、環境会議、建築相談が大会の中でスタート。10/23の理事会で「全国会議」の承認を得る。

東海支部役員会報告

今年度から東海支部幹事を務めることになりました、愛知地域会の矢田と申します。よろしくお願いたします。昨年度までは愛知地域会での活動が中心で東海支部、本部で議論されている事項については理解不足の内容も多く、支部役員会では勉強の日々です。特に、「正会員＝登録建築家」の問題は地域会レベルではあまり議論されておらず、各地域会の会員の皆さまに周知していただく必要があるのではないかと感じています。また、東海支部の財政的な問題も幹事になり理解が進みました。そんな中でも、支部の三大事業である設計競技、卒業設計コンクール、東海住宅建築賞では精力的な活動が行われており、委員の皆さまの努力には頭が下がります。今後も継続的に事業が展開できるよう財政基盤の整備は重要な課題であると思います。

矢田義典 | 矢田義典設計室



日時：2014年10月3日（金）16:00～18:00

場所：昭和ビル5階 JIA 東海支部会議室

出席者：支部長、本部理事、幹事11名、監査2名、オブザーバー10名

1. 支部長挨拶

岡山大会が開催され、参加の皆さん、お疲れさまでした。東海支部からの参加は若干少なかったように思いますが、資格制度のシンポジウムなども開かれました。

2. 報告事項

(1) 本部報告

- ①2014年第2回 理事懇談会（9/25）（鳥居） ※理事会レポート参照
- ②第14回 フェローシップ委員会（9/19）（谷村）
 - ・フェロー会員選考運営マニュアル修正（案）について
 - ・東北支部フレッシュマンセミナーについて
 - ・準会員、協力会員制度の整備を総務委員会が担当することについて
 - ・「会員資格の停止願い」書式について
- ③第3回 支部広報委員長会議（9/16）（奥野）
- ④第6回 本部広報委員会（9/16）（奥野）
- ⑤職能・資格制度委員会（9/17）（植野）
 - ・東海支部では9/13に講習会が開催され、その報告を行った。
 - ・岡山大会のシンポジウムは20名程度の参加であった。
 - ・「正会員＝登録建築家」となると建築家認定評議会はどうか。
 - ・第三者性が大事なので、認定評議会は維持することになる。
 - ・支部資格制度委員会委員長は本部の資格制度委員長が任命する。

(2) CPD 評議会（9/24）（塚本）

(2) 支部報告

- ①第3回 東海支部CPD評議会（8/29）（塚本）

- ②第2回 東海住宅賞 表彰式及び講演会、シンポジウム（9/28）（吉元）
 - ・学生を含め約100名の参加があった。

- ③第31回 JIA 東海支部設計競技（11/22）（矢田）

- ・チラシを「ARCHITECT」11月号に同封する。
- ・CPD 単位を4単位申請している。

(3) 各地域会からの報告（各地域会長） 省略

3. 議事 その他

(1) 審議事項

- ①ジュニア会員入会申込「豊田直樹」（中西） 承認
- ②「ARCHITECT」1月号「新年広告」について（牧） 承認
- ③ゴールデンキューブ賞 予算案修正について（関口） 承認
- ④「JIA 東海支部講習会」決算報告（鈴木） 承認
 - ・10/27の支部資格制度委員会に本部委員の参加を要請する
 - ・会員集会を開いてはどうか。
- ⑤「第6回建築コンクール」 ⇒ 宛先が愛知地域会であり、審議対象から除外
- ⑥「世界劇場会議国際フォーラム2015 in 可児」後援名義依頼について（久保田） 承認

(2) 協議事項

- ①フェロー会員推薦について
静岡：決まっていない。 岐阜：藤井会員を推薦する。 三重：なし。
愛知：年齢に関係なく推薦をする。
- ②全国会議（岡山大会）
 - 1) JIA 保存再生会議（キックオフ会議）（9/26）（原）
 - ・岡山大会でキックオフ会議が開催された。
 - ・原眞佐実 愛知地域会保存研究会委員長を窓口とする。
 - ・交通費などは今後の調整が必要で、基本はWEB会議。
 - 2) JIA 環境行動会議（柳澤）
 - ・岡山大会で、JIA 環境会議「第1回公開委員会&公開討論会」が開催された。
 - ・東海支部内に受皿とネットワークづくりが必要。

(3) その他

- ①「JIA 建築家大会2014岡山（9/25～9/27）」（久保田）
- ②東海支部委員会運営概要と役員会委員運営規定について（久保田）
- ③東海支部役員・委員会一覧（久保田）
- ④「ARCHITECT」について（牧）
 - ・記事を書いてくださった学生、入賞した学生には各委員長より「ARCHITECT」を郵送下さい。
 - ・執筆者が講師の無料の講演会の場合、記事のダウンロードおよびコピーを許可する。
 - ・今後は有料の講演会の場合などの記事の取り扱いの検討が必要なので、会報委員会で協議する。



メタボな美術館

私たち世代の建築家にとって、十数年前までは、「メタボ」と言えば「メタボリズム」を意味するものであった…ハズである。

そのメタボリズムを代表する建築家の菊竹清訓氏が設計した「ベルナル・ビュフェ美術館」(1973年竣工)が今回紹介する建築です。

小学校の遠足で、この美術館を訪れたのが最初の出会いですが、それまでの人生では建築に触れたことなどまったくなかった私が、生まれてはじめて「建築」に心が触発されたことを、遠い微かな記憶として覚えています。現在は増築も施され、こども美術館が増設されているため、私が見学した竣工当時と雰囲気は多少異なりますが、ビュフェの直線的な絵画と、研ぎ澄まされた建築空間がみごとに融合された作品だと思います。



所在地: 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 TEL 055-986-1300
水曜日休館、入館料: 大人1000円

ミラーボールと蕎麦

私たち世代のオヤジたちにとって、「ミラーボール」とはディスコで使うものであって、決して蕎麦屋で使うものではなかった…ハズである。

そのミラーボールが回っている「そば半」という蕎麦屋を紹介します。

とは言え、ミラーボールが回るのは店長おすすめの「鴨テツそば」を注文したときだけの特典?で、こだわりの蕎麦は、北海道産無農薬有機栽培の蕎麦の実を自家製粉した十割そばとなっており、風味も味も文句なしの一品です。さらに、ミラーボールはありますが、建物自体は古民家風の落ち着いた雰囲気の蕎麦屋です。登呂遺跡の近くにあるのが登呂店で、ミラーボールが回るのは馬淵店のみですが、両店舗とも味も雰囲気もお勧めしますので、近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。



そば半馬淵店: 静岡市駿河区馬淵4-5-23 TEL 054-269-5536
そば半登呂店: 静岡市駿河区登呂6-2-1 TEL 054-286-6333

地域会だより

<静岡>

- 10/16 第2回建築フェア(中部)特別委員会
- 10/16 10月静岡地域会定例役員会
- 11/13 11月静岡地域会定例役員会
- 12/3 JIA静岡建築フェア・「第2回建築家講演会」講師:前田圭介氏
- 12/4 JIA静岡建築フェア・「第2回建築ウォッチング(株)ROKI研究開発棟)+第2回企業ウォッチング(法人協会会員:佐藤工業株)」
- 12/12 JIA静岡建築フェア・「第3回建築ウォッチング(駿府町歩き)」
- 12/16 静岡ガス本社見学+ワインの夕べ
- 12/18 JIA静岡建築フェア・「ワークショップ」講師:亀井暁子氏。
12月静岡地域会定例役員会(拡大)、忘年会
- 12/22~25 JIA静岡建築フェア・「建築家作品展」

<愛知>

- 10/16 JIA愛知プロフェッショナルセミナー 2014-建築家実務講座-「構造」シリーズ2 第3回「RC造のひび割れを減らすには」 研修委員会
(※詳細はP12掲載)
- 10/22 研修委員会
- 10/23 すまいる愛知住宅賞 表彰式・講演会(中区役所ホール)
- 10/27 支部・愛知職能資格制度委員会、愛知まちなみ建築賞第2回選考会
- 10/28 住宅研究会
- 10/29 事業委員会
- 10/31 親睦ゴルフ
- 11/4 総務委員会
- 11/7 地域会役員会

- 11/8-9 建築家フェスティバル2014(長者町えびす祭り)
- 11/18 CPD研修(見学会)(法人協会)
- 11/22 <第31回設計競技2次審査・表彰式・作品展示・記念講演会>
(名大・ESホール)
- 11/29-30 <第1回子どもの建築発表交流会>(名古屋都市センター大研修室)

<岐阜>

- 10/7 14:30~15:30 岐阜県住宅リフォーム推進協議会設立総会 出席。場
所:ふれあい福寿会館4階409特別会議室 出席者:岐阜県都市建築部
公共住宅課、(公社)岐阜県建築士会、(一社)岐阜県建築士事務所協
会、(一社)岐阜県建設業協会、(一社)岐阜県建設工業会、岐阜県木材
協同組合連合会、岐阜県産直住宅協会、JIA 東海支部岐阜地域会
- 10/14 18:30~20:00 平成26年度 JIA岐阜地域会 第4回役員会
場所:ハートフルG 小研修室2
- 11/18 16:30~20:00 第2回「JIAの窓」講演会開催予定
場所:岐阜市玉宮町2-9-1「円相 玉宮」3階 講演者:置塩淳夫氏
テーマ:「私にとっての建築」
- 11/21 平成26年度建築研修会(研修視察会)
滋賀県近江八幡市 オイレスECO(株)
- 11月開催予定 18:30~ 場所:ハートスクエアG 第5回役員会

<三重>

- 10/8 「みえ歴史的町並み防災・復興研究会」第1回幹事会 出席
- 10/10 第5回例会、会員研修会3(建材研修会)(※詳細はP14 掲載)
- 11/1 第27回建築ウォッチング(草津宿場町ほか)
- 2/7 建築文化講演会 講師:三分一博志氏(アスト津 アストホール)

弔りこころ、大切な葬儀

葬儀のこと、お応えします。

古くから受け継いできた葬送という文化、
弔うことを今も大切に伝えます。
信頼と真心の葬儀で137年。
一柳葬具總本店

いちやなぎ斎場は、365日・24時間、
いつでも病院・施設等から直接入れます。

いちやなぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号
TEL (052)745-1212

いちやなぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号
TEL (052)899-0111

◆葬儀のお申し込み◆お問い合わせ◆事前相談は

TEL.052-251-9296

365日・24時間 一柳のスタッフが対応いたします!

日本建築家協会東海支部 特約店

創業137年の伝統と実績



株式
会社

一柳葬具總本店

<http://www.ichianagi-sougu.co.jp>
名古屋市中区栄三丁目14番11号
TEL (052) 241-0658 FAX (052) 263-1310



編集後記

●「JIA 正会員ルート」という話があります。今年6月のJIA 本部総会の後にJIA 基本政策諮問会議答申書(案)の意見交換会が行われ、9月のJIA 岡山大会でもシンポジウムが開かれました。12月16日にはJIA 東海支部会員集会が開かれます。来年6月の本部総会での制定を目指して内容の検討をしていくという流れのようです。JIA 正会員と登録建築家という基準を統一してUIA 基準の建築家と同等の証明にする。会費の問題・CPDの取り扱いの問題・JIA 正会員の中の一級建築士を持たない正会員についての扱いなど、多様な事項が含まれています。会員の規定にかかわる重要な事項です。東海支部機関紙「ARCHITECT」の中でも、枠を設けて継続的に会員の意見を載せていきたいと思っています。一般の方から分かりにくいと思われる

「建築家」や「JIA」について考え整備するいい機会かもしれません。そして一般の方に対しても分かりやすく伝えることができる内容になるとよいように思います。(牧ヒデアキ)

●私は今秋、仕事で石川県に行った際、武家屋敷跡へ立ち寄りました。武家制度の解体とともに衰退したものの、幸いにも門や土塀は従来のままの姿を残しており、当時の雰囲気味わうことができます。その中で唯一、一般公開されているのが加賀藩士であった野村家跡。贅を尽くした襖や格天井をはじめ、庭園に至っては海外からも高い評価を得ています。この日も街並み見学をしている外国人グループを見かけました。最近では日本人以上に日本文化に興味を持つ外国人が目立っています。

今回、倉敷町家にて全国地域会長会議が行われたとの記事を拝読しました。日本にはまだまだ残すべき文化財が数多く残っているに違いありません。日本人は独自のカル

チャーを生み出し、海外に発信する力を持っています。その力を伝統文化の継承にも注げたら、もっとすごいことになるような気がします。慌ただしく過ごす日々の中でふとこんなことに考えを巡らせた一日でした。

(石川英樹)

ARCHITECT

第315号

発行日 2014.12.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 石田 壽

編集責任者 牧ヒデアキ

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>